

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議が定期的には開催されていない。また会議を生かした取り組み・話し合いが不十分である。	概ね2ヶ月に1回の開催を遵守するとともに、特に利用者家族の要望や意見を気軽に発言してもらえるような議題の選定と雰囲気づくりに心がける。	参加メンバーは出席可能な利用者家族に通知し、幅広く意見を聴取し施設運営に生かす。地域代表は事業所の内容や課題に最も理解のある民政委員に引き続き出席を依頼する。	3ヶ月
2	6	家族同意のもと、睡眠時の転落防止のためベッドの2点柵を行っているが、経過記録やカンファレンス記録が不十分である。	ベッド柵は睡眠時必要な利用者のみ、家族の同意を得て2点柵をしているが、安全を優先したものであり、夜間の見守りも十分にを行い利用者の様子や要望を確認しているため、身体拘束とは認識していない。	家族の同意を得たもののミトンは現在使用していない。今後衛生面が心配で、どうしても必要な時だけミトンを使用することとし、その際は記録に残すこととする。	3ヶ月
3	40	介護度の進行と加齢により、食事の準備や片付けは、利用者職員と一緒に出来ない。	お手伝い可能な利用者には積極的に声をかけ、食事準備の部分的な作業を依頼するように努める。	車椅子利用者が大半を占めるので、座位で可能な限られた準備作業を職員と話し合い、補助しながら実施する。	6ヶ月
4	35	年2回の消防訓練は実施できているが、災害時の夜間を想定した避難訓練が未実施である。また、災害備蓄備品の見直しが必要である。	まず、公的補助金を活用し設置した火災報知機、火災通報装置、スプリンクラー設備の操作と運用訓練を徹底し、初期消火対応ができるように努める。併せて、備蓄備品の見直しを図る。	初期消火訓練を徹底した後、災害時の夜間を想定した避難訓練を計画する。備蓄備品も職員との話し合いや運営会議で検討し、内容と量の見直しを図る。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。